

います。

環境省では、「野草地環境保全計画」に基づき、特に野草地の保全・再生の効果が期待できるものについて牧野組合等と協定を結び事業を進めています。

POINT 03

野焼きの支障となる雑木伐採などを実施(狩尾牧野、長野牧野)

平成18年度に、「野草地環境保全計画」が作られた狩尾牧野(阿蘇市)と長野牧野(南阿蘇村)では、平成19年度小規模樹林地排除などの事業を進めています。

狩尾牧野では、牧野内にノリウツギなどの雑木が繁茂し、野焼きがうまくできず野草の生育の支障となっていることから、現地調査を行った上で、これらの雑木の伐採を行う予定です。



崩壊した管理道の調査

また、野焼き・採草に使われている道の一部が崩れて使えなくなっており、その修復についても事業化を検討中です。

長野牧野では牧野内の一部に、採草利用が行われなくなり、かつ野焼きを中断している箇所があります。野焼きを再開して豊かな野草地に再生するために、必要な管理道や防火帯整備に向けて調査を進めています。

TOPICS

秋の草原にアートなロールが出現!



阿蘇草原再生シール生産者の会では、農水省による「農村景観・自然環境保全再生パイロット事業」を活用して、2つのイベントを開催しました。

10月20日(土)には、生産者の農園での収穫や草原を体感するツアーを実施。11月3日(土)には、子どもたちに草原と親しんでもらおうと、干し草ロールへのペイントを行いました。両日も天候に恵まれ、参加者に、豊かな草原を守る上での採草の重要性などを知ってもらい、阿蘇の草原への理解を広げるいい機会になりました。

POINT 04

野焼きを効果的に続けるために樹林地を除去(田子山)

田子山(阿蘇市)では、高齢化や後継者不足のために野焼きができず草原の藪化が進んでいましたが、平成18年春に、地元関係者や(財)阿蘇グリーンストックの野焼き支援ボランティアの協力で野焼きを再開しました。しかし、長年野焼きを中断していた間に草原内にアカマツが自生し、野焼きの際の障害となっているため、地元および阿蘇市と協議し、今年度、約1.2ha

の範囲に生育するアカマツ126本を伐採することになりました。



野焼きを再開した草地に自生するアカマツ

Interview

草原再生への期待

田木祐一郎氏



阿蘇郡産山村産山小学校
教諭 山鹿市出身
大津市在住



子供たちからのメッセージを多くの人に届けたい

産山小学校では教育特区の認定を受け、小中一貫教育の学習の一つとして「うぶやま学」を進めています。5年生ではテーマに「草原とわたしたち」を設定し、学習を進めました。草原を見学に行ったり、地元の方や環境省のアクティブレンジャーに話を聞いたりして草原と人々の暮らしとの関わりを調べ、自分たちのこれからについて考えました。そして、学習のまとめとして、昨年度は、学習発表会で荒れた草原で生きるオオルリシジミの劇「草原物語」を発表しました。子どもの頃の私は、阿蘇の草原

をただきれいだと思うだけでした。しかし、子供たちと学習するなかで、人々が守り続けてきた歴史や暮らしとの関わり、これこそが草原の本当の価値だと思うようになりました。

「みんなが生きているのは豊かな自然のおかげ……、荒れた草原にしたのは人間だけど、守ってきたのも人間。この草原を大切に思う心をたくさんの人につなげていきたい」という子供たちからのメッセージを多くの人に届けながら、自分なりに草原再生に参加していきたいと思えます。